

中央大学 理工学部 電気工学科 同窓会誌

発行所 東京都文京区春日1-13-27 中央大学理工学部・電気工学科同窓会

第10号

TEL(813)4171(内)245-6

はしがき

会長 吉久信幸

昭和二十八年から四十三年まで毎年一回開催された同窓会懇親会が、昨年は全国的な学生運動の影響により、開くことができず、また今年も例年より五ヶ月遅れたことについて、深く陳者いたしました。

ある日本人が欧州へ行き、小形スピーカーをたくさん買わんと、帰国してから、よく調べる、その半数以上が日本製で売られている。現在世界の各国で使用されている音響製品の約半数が日本製と推定されています。スピーカーに限らず、種々の電気製品が全世界に輸出されています。

日本の国民総生産が世界第三位になつたこと、電気機械と電子工業製品との輸出が急速に延びたことについて、卒業生各員の御努力がその一端を担うと考へ、まことに御同慶のいたりです。しかし一人当たりの生産は二十位前後であること、また研究者として、一層の努力を続けることが必要でありましよう。それと同時に経済大国の国民として、ゆとりある生活、心のゆとりがもう少し欲しいという気持がします。

最近ヨーロッパから御帰国になつたドイツ語の近藤

教授のお話の中に、「ヨーロッパの市街はきれいですね。」と感嘆の言葉がありました。私も五年前に同じことを痛感しました。パリは都市計画も立派で、またドイツ、スイスなどの公園もよく管理され、一週間後に同じ公園を通ると、花壇の色調が変化して美しい花が美事に咲いている。個人の住宅の玄関、室、庭もよく整つて美しい。この表面的な美しさばかりでなく、他人に対する思いやり、心のゆとりも日本人以上でした。

たとえば、航空機や地下鉄の乗り降りの際にも、押し込まれた経験は一度もありませんでした。ただ一度だけ、ローマからカイロの飛行場に降つて降りる時に、細い通路の私の前に割り込んで平気で降りた人がいました。それは日本人でした。これは私が欧州を二ヶ月余旅行した実感の一例です。

日本がもつともつとよい国になるためには、心のゆとりが必要であり、自分に対する気持より、他人に対する気持がたいかと思ひやります。

今年若い卒業生幹事諸君からの希望もあり、変つた懇親会を開催することになりましよう。どうか多数御参集になつて、旧交を温めると共に、有意義な一日とされますよう、お願い致します。

電気科主任 梅原忠利

の御挨拶

さわやかな秋を迎えて卒業生諸君は益々張り切つて御活躍の由、風の便りに伺つており、電気工学科の一同心から喜んでおります。

今年も既に四年生のほとんど全員就職が決定して、おり来春には実社会に出て、同窓会のメンバーに加わることになるので、先輩の諸兄は豊富な経験を生かして適切な指導を後輩のためお願い致します。

昨年は中央大学は勿論のこと、日本の大学の大多数が紛争に巻き込まれ、同窓の諸君には御心配をおかけしたことをお詫びし、又多くの御援助をいたゞいたことをお礼申し上げます。おかげで現在平静に授業が行われ、学作りの作業が進行中です。

我が国が文化国家として世界に貢献するには、大学の振興を図ることが絶対必要であり、そのためには学生と教職員とが徒らに争うことは極力避けるべきであり、お互いに分を守り協力することが大切で、卒業生の方々もその方向に向つて御力を願ひします。

本年度から小林先生が教授に、篠田、木下雨助手が専任講師になられ、教授陣が一層充実されました。又

大学院生の数が大巾に増加したことは特筆すべきことで、これは中央大学の質的向上を示すもので、これらの方を学部の学生の演習、実験に動員して学部の教育の充実を図ることもできるので、誠に喜ばしい現象です。

今後電気工学科の一層の充実発展を図り、実力ある後輩を送り出して同窓会が益々大きく発展して行くよう努力したいと思ひますので、卒業生の方は一層の御支援、御協力をお願い致します。

諸君の御健康と御活躍を電気工学科の教職員一同お祈り致しております。

新入会員挨拶

第十七期 三浦勉

この度、四年間の学部生活を終え、多数の同窓生の一員として、中央大学電気工学科同窓会に入会出来ましたことは、私達にとりまして、誠にうれしく思ひ次第です。思い返せば、毎年の学園紛争の苦しみや、その中で大学とは何か、を考へる別な意味での喜び、又諸先生方の誠意あふるる授業、さんさんいじめられ、わたされたことも懐しく思われましよう。これからは、社会人になつたばかりの私達には、何もかも、わからぬことがかりであり、不安も希望もろろ高く積つて居

りませんが、先輩諸兄の豊かな経験談、温い忠告、困難にぶつかつた場合の適格な御意見が得られることや、又私達が今後、社会的にも学問的にも経験を積み、新たに卒業される人達に対して、多少なりとも、一諸に考へて行ける機会が得られることを思いますと、同窓会に對する深い意義が、今さらの様に感じられる次第であります。同窓生の先輩諸兄には今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。

新入会員挨拶

第十八期

西村 幹 夫

このたび、中央大学電気工学科の同窓会に入会させて頂くことになり、諸先輩方に御挨拶申し上げます。今春、長いようで短かつた四年間を過ぎた学舎を去り、新たなフアイトと多少の不安を抱いて社会人の仲間入りをしたわけですが、今、学生時代を顧みるに、私達が勉学に勤しんだこの四年間は、学園紛争の最も激なる時期であつたように思われます。幾多のストライキあるいは半年以上も続いた学園封鎖を経験して来た私達にとつて本當に人間的に考えさせられる時期でした。

社会に出ますと、自然に疎遠となりがちですが、諸先輩方ともお会いし、豊富

な経験談、御意見、御指導を仰ぐこともあると思ひますが、その節は何卒よろしくお願い申し上げます。

健康と趣味

第二期
望月 政 尚

最近のサラリーマンの多くは、たばこ、酒、麻雀、ゴルフ、釣り、そのほかスポーツ等を好んで楽しんでゐるが、ただ単に趣味だけでおわらせずに健康管理のいみでも、よい環境で過ごすことを考えたなら、人生にも大いにプラスになるであらうとおもふ。このような意味で私は最近磯釣りをやるようになった。広々とした紺碧の海で、山の紅葉をバックにした釣りに、又格別の味わいのあるもので磯釣りをする人とのみ与えられた特権のように思われる。

公害に悩まされる都会では想像もつかない程新鮮なおいしい空気を胸いっぱい吸い込んで釣りをすると、きは遠い国にいる様な気がしてくる。わたしは或る釣りの会に入つてゐるが若い人から年寄りまで様々な職業を持つてゐる人たちが、釣りに行つたときなどよくこんな事をいつて話してゐる。先日七十四才にもなる年寄りの釣人がこんな事を云つてゐた。"釣りをやつてゐる人は週に一回の釣行をしたとして、月に五日、年に六〇日、一〇年間にせよ六〇〇〇日、約一年半も海にでてきれいな空気を吸つてゐることになる。かりに釣り一回で一日寿命がの

びるとしたら同じ都会に住む人にくらべて一年半以上も余計に長生きができるのだよ"と面白げに話してゐた。たしかに道理だなぁと皆で笑つてゐたが、年寄りになれば誰れもが健康について気になることは当然なことと思う。

"若い内は大いに鍛えろ"と云うところである。最近では学生が釣りの会を作つて登山装備よろしく合宿がてらの釣りに来るすがたもちらほらみられる。まことに結構なことだ。健康のふつてゐるよりよほど健康的である。"健康は足から鍛えろ"とのたとえどおり足をきたえることに違がる。わたしは日頃ごく簡単にできることで訓練をしてゐる。それは階段を上り下りする時など、エレベーターなど使わずに、もつぱら足を使うようにしてゐる。

ことに降りるときはからだによいといふことは人体学上も認められるところであり、長命の秘訣でもある。

若い内からのちよつとした心掛けが自分の人生にプラスになるとしたら、大いに健康的な趣味に興味をもつことである。

だいたい年の話したつていささか自分でも年をとつたのかなあという感じがしてきなのでは、稿をおわるが、良い環境を生かして大いに人生を楽しみ、お互いに長生きしようではありませんか。

S 二九年 二期 八洲電機(株) 営業課長

録音機

第四期

今野 利 男

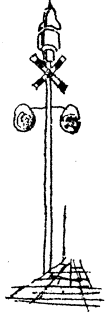
昨日、同級の遠藤君から会誌の原稿依頼の速達が届いた。早いもので卒業してからもう一四年もたつてゐる。全く月日のたつのは早いものだと思はされた次第である。原稿の内容には制限を加えぬとのことのだが、何を書いていゝやら困つてしまつた。あれこれと考へては見たが、最後には一四年の歳月をふりかへつてみようということになつた。幸か不幸か、一四年間録音機の設計だけに従事して来た。話もそれが中心となつてしまふ。私が足を踏み入れた当時の録音機は一九cm/secで、七〇〇〇Hzがやつと再生出来る程度のもので多かつた。回転する程度でもせいぜい0.3% rms程度で、S/Nは四〇dBを越えさせるために大変な苦勞をした記憶がある。今にして思えば隔世の感がある。十年一昔というが正にその通りである。その後ステレオが開発され、否応なしに手を染めることになつたが、始めて聞いた立体音は驚嘆に値するものであつた。最近4チャンネルのステレオの音を聞いてゐるが、最初のステレオを聞いた時程の感激を覚えなないのはどうしたものであろうか。その後カーステレオやカセットが開発され、テープレコーダー業界もすつかり変貌してしまつた。オートプリープ式は、影が薄くなり小型テープレコーダーは、全てカセット式になつてしまひ、

往年のスターも今やデツキ等のHIFI製品に露命をつないでいる感が強い。カセットは五年前に、オランダのフリリッブス社が特許を公開して以来、生産台数は増加の一途をたどり、或種の問題をかゝえながらオープンリール式小型録音機を完全に駆逐するまでになつてしまつた。

四七五cm/secで一二KHz、一三KHz程度の周波数まで再生可能であり、S/Nも四〇dB以上とれるので一般家庭用の録音機としては充分過ぎる素質をもつていたと言ふことが出来る。一〇年前の一九cm/secの特性が、その1/4スピードで得られる様になつたわけである。この陰には磁気テープの改良という事実があることを忘れてはならない。

最近の録音機の動向をまとめると、次の様になると思ふ。録音時定数の低減、録音トラックの細分化、録音の高密度化、低雑音テープの出現、ダイナミックレンジの拡大方式の実用化等々である。

書き始めると際限がなくなるので、この位にとどめるが、私の過去一四年間はワウ・フラッター、信号対雑音比、歪率、周波数特性、といった得体の知らないものとの戦であつたといえる。そしてこれからも録音機がなくならない限り、これらとの戦を続けていくことになるであらう。



以上

幹事雑感

第八期 浅沼俊夫

同窓会の幹事を仰せつかつてから十年も歳月が流れてしまいました。私は昭和三九年頃より仕事の都合で、五月から七月頃まで、毎年留守をいたしましたので、幹事会も、同窓会もしばらく御無沙汰しておりました。先日、幹事会を開くからとの御連絡があり、久し振りに皆様にお会い出来ると思ひ、出かけたところ、幹事の皆様に、連絡がつかない方が以外に多いと。しかし学校には、同窓の諸先生方が多数おられますので、決して淋しくはないのですが、多数お集りになれば、それだけ会も楽しいものとなります。卒業以来、年月がたちますと、皆様も次第に重要ポストにつかれ、ますます御多忙になつて来ていると思ひます。その間には引越したをなさつたり、転勤等で勤務先が変つた方も多しと思ひます。同窓会名簿に一寸目を通しただけでも、以外と変つた方が多いのに驚きました。同窓の方々と連絡を密にするのは、幹事の仕事の一つですが、私自身至らない事を反省してもおります。先日の幹事会に出席して、学校におられる幹事の方々が、同窓の皆様と連絡がとれずに非常に苦労されている事を知りました。皆様も御忙しいとは思いますが、御自身の事は勿論、友人の方で、住所、勤務等を変られた

方にお気付の時には、お手数でも、是非学内電気工学新同窓会へお知らせいたゞければ、今後の同窓会の運営を一層円滑にする事が出来ると思ひます。皆様の中には数人のグループで、時々お集りの方々が多しと思ひます。その様を時に、どなたが代表して御連絡下さると大変助かると思ひます。学校におられる幹事の皆様の御苦勞を見て、皆様の御協力を是非お願いいたしたいと思ひました。

結婚

| | | | |
|-------|-----|----|----|
| 川野功 | 昭43 | 3 | 1 |
| 鈴木平 | 昭44 | 3 | 2 |
| 池田昌樹 | 昭44 | 3 | 22 |
| 吉田健一 | 昭45 | 3 | 29 |
| 永田裕 | 昭44 | 10 | 28 |
| 鳴原真澄 | 昭45 | 4 | 21 |
| 下田司 | 昭45 | 4 | 26 |
| 木下淳一郎 | 昭45 | 10 | 29 |

赤ちゃん誕生

| |
|------|
| 池田昌樹 |
| 米倉孝栄 |

昇格

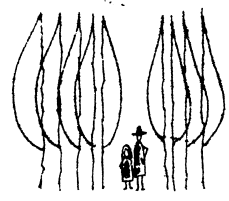
| |
|------------|
| 教授 小林健一 |
| 専任講師 木下淳一郎 |
| 篠田庄司 |

新任紹介

| |
|-------|
| 高木千賀子 |
| 川島むつ子 |
| 土井保道 |
| 田中暁彦 |
| 伊東 |

退職者

| |
|------|
| 高橋良政 |
| 斉藤キヨ |
| 畦地具義 |
| 白井琢二 |
| 谷沢茂 |



会員住所変更
移動等について

今年には名簿改訂の年に当つて
おり、年内に改訂版及びその後
に入会した会員の追録版を発行
することになつております。つ
きましては総会出欠の返信用ハ
ガキに、友人知人の移動等があ
つておわかりの方がおられまし
たらぜひお書き入れいただきた
くお願い申し上げます。なお前
回発送いたしました方へ名簿を
購入した方へには無料にて発送
の予定でございます。ご協力せつ
にお願
い申し上げます。

(名簿係 市川友之)

会務および
会計報告

- 一、第十六回幹事会、五月下旬、
十二名出席議題
- (一) 第十六回総会の件
- (二) 名簿の件
- (三) 役員改選の件
- 二、第十六回総会開かる。新入
会員を迎えて七月十四日(日)第
十六回総会は東京駅前国際観
光ビル内の国際飯店で盛大に
開かれました。
- 七〇名の会員が出席し、中大
落語研のアトラクションが有
り終始ゆかいに過ぎました。
- 三、第十七回幹事会、本年十月
十四日六時三十分中大理工に
て開かる。出席 十二名
- 議題 (一) 総会の件、(二) 同窓会
誌(第一〇号)発行の件
- (三) 名簿の件

昭和44年度会計報告

| | |
|-----------|---------|
| ◎ 収入の部 | |
| 前年度よりの繰越金 | 543,928 |
| 44年度終身会費 | 322,000 |
| 預金利息 | 19,079 |
| 名簿代 | 5,805 |
| 計 | 943,812 |

| | |
|--------|---------|
| ◎ 支出の部 | |
| 通信及び印刷 | 1,900 |
| アルバイト代 | 1,000 |
| 次年度繰越金 | 940,912 |
| 計 | 943,812 |

昭和43年度会計報告

| | |
|-----------|---------|
| ◎ 収入の部 | |
| 前年度よりの繰越金 | 603,119 |
| 43年度総会費 | 90,200 |
| 預金利息 | 19,593 |
| 名簿代 | 1,600 |
| 43年度終身会 | 135,000 |
| 計 | 849,512 |

| | |
|---------|---------|
| ◎ 支出の部 | |
| 43年度総会費 | 82,600 |
| 通信及び印刷 | 84,600 |
| アルバイト代 | 12,966 |
| 事務・運営費 | 11,918 |
| 次年度繰越金 | 543,928 |
| 名簿作成代 | 113,500 |
| 計 | 849,512 |